



生後10日から横抱っこで、
生後1ヶ月から縦抱っこで、
36ヶ月までおんぶで使える。

取扱説明書

保証書

このたびはお買上げいただき、ありがとうございます。

- ご使用前に、必ずこの取扱説明書をよくお読みの上、正しくお使いください。
- 本書は、いつでもご覧になれる場所に大切に保管してください。
- 本製品を他の方にお譲りになるときは、必ず本書もあわせてお渡しください。
- 経年劣化があるので、不測の事態を避ける為、お買上げ日より3年を超えたご使用はお控えください。

安全にお使いいただくために

お子様の対象月齢

- 横抱っこ: 生後10日から首すわり(4ヶ月、体重7kg)まで
 - 縦抱っこ: 生後1ヶ月から24ヶ月(体重13kg)まで(対面抱っこのみ)
 - おんぶ: 首すわり(4ヶ月)から36ヶ月(体重15kg)まで
- ※退院時や、早産児・呼吸器疾患児等の場合は医師にご相談ください。

使用できる装着者の
ウエストサイズ

着衣後約135cmまで

警告 誤った取り扱いをすると、人が死亡または重症を負う可能性が想定される内容です。

落下の危険性

- お子様が落下する恐れがありますので着脱は安全な場所で低い姿勢で注意して行ってください。特に慣れないうちや、おんぶは介添えしてもらってください。
- この取扱説明書をよく読み、正しく調節し、全固定箇所を確実に締めて使用してください。
- 身体を傾ける際には、お子様を手で支えて落下しないように注意してください。
- 大きく前屈みをせず、ものを拾うときは、お子様の頭が下向きにならないように、ひざを曲げて腰を落としてください。
- 横抱っこでは、抱っこひもの上から必ず手を添えて、お子様を抱くようにして使用してください。お子様の頭が下になったり、装着者の身体から離れた状態にならないようにしてください。
- ご使用前には製品全体を点検し、製品に切れ・破れ・ヒビ等の破損がある場合は使用しないでください。
- 横抱きパッド単独使用の場合は、お子様を固定するものがないので、特に落下にはご注意ください。

窒息の危険性

- 生後4か月未満のお子様は、装着者の身体に顔を強く押し当てた状態にしないでください。本製品内で窒息のおそれがあります。
- お子様を装着者の身体に強く縛り付けずに、お子様の頭部を動かせる余裕があるように装着してください。
- お子様の気道をふさぐことがない等、常に状態に注意して使用してください。
- 早産児及び呼吸器疾患等のある乳幼児は、生後1ヶ月でも縦抱っこを控え、医師にご相談ください。

注意 誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害が生じる可能性が想定される内容です。

準備・着脱時の注意

- 首のすわらないお子様はヘッドサポートで側頭部及び後頭部を保持してください。
- ご使用前に、バックル等の固定部が確実にとめられていること、特にサポートバックルを必ず確認してください。
1箇所でも破損している場合は使用しないでください。装着後もゆるみがないかを確認してください。
- 抱っこで使用する場合、お子様の頭で前方、特に足下の視界が妨げられないように装着し、歩行時にもご注意ください。
- 縦抱っこは全てお子様と装着者が向き合う対面抱っこのみです。

ご使用に際しての注意

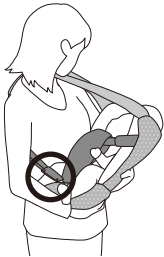
- バックルの開口部にお子様が入らないように、使用しないときでもバックルをはめ込んでおいてください。
- 授乳後30分間は使用しないでください。お子様のおなかを圧迫し、消化吸収をさまたげるおそれがあります。
- 連続2時間以上の使用はしないでください。お子様の体調や装着状況を常に確認してください。
- 体調がすぐれない時や、身体に痛みを感じたら、ご使用をお控えください。
- 飛行機、車、バイク、自転車では使用しないでください。
- 料理や掃除等の家事をする場合は十分に注意してください。火気によるやけどや屈むことによる転落等、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 製品を火気の近く、屋外、直射日光のあたる場所に放置・保管しないでください。
- 汗や水で湿った状態で摩擦を受けると他に色が移染する場合があります。
- 製品の改造はしないでください。
- ポケット等には硬いもの、とがったものを入れないでください。
- 目的外の使用はしないでください。
- 横抱きパッドは単体で使用しないでください。

★ご購入時は「横抱っこ」ができるようになっていきます。3～5ページを参照ください。

各々の抱き方の基本的な形態

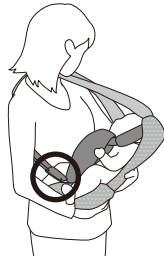
横抱っこ

A 横抱きパッド
使用



肩ベルトは下部中央に連結

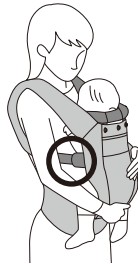
B 横抱きパッド
不使用



Aがお買上げいただいたときの状態で、**C****D****E**にするにはバックルを差し替えます

縦対面抱っこ

C 首すわり前



D 首すわり後



肩ベルトバックルを左右に差し替え

おんぶ

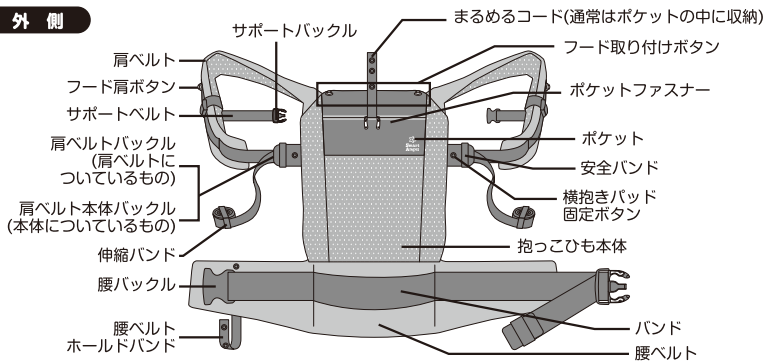
E 首すわり後



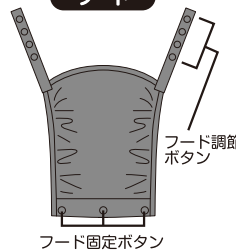
各部名称と注意事項

- 以下の「各部名称」で説明されているものが入っているか、破損がないかを確認してください。
- 欠品や破損の場合は、お買上の販売店またはお客様窓口にご連絡ください。

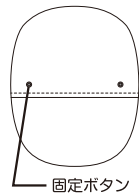
外側



フード

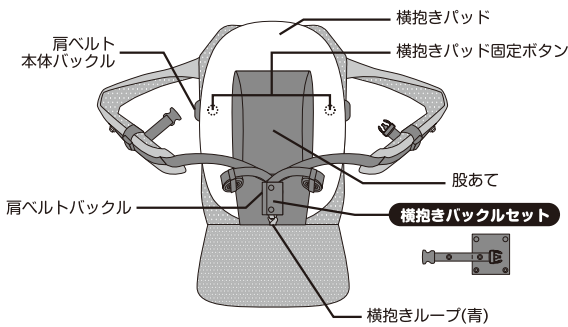


横抱きパッド

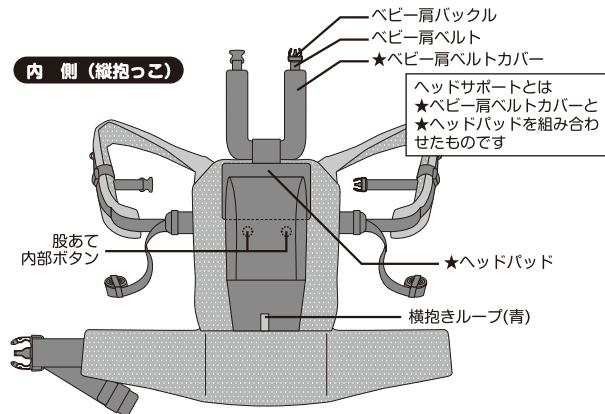


初回出荷時は以下の「横抱っこ」の形態になっています。

内側(横抱っこ)



内側(縦抱っこ)

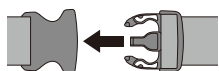


各々の抱き方の対象月齢と必要な部品

		下限	上限		ヘッドパッド	横抱きバックルセット	横抱きパッド
A	横抱きパッドを使用した横抱っこ	10日	4ヶ月	7kg	○	○	○
B	横抱きパッドを使用しない横抱っこ	10日	4ヶ月	7kg	○	○	×
C	首すわり前の縦対面抱っこ	1ヶ月	4ヶ月	7kg	○	×	×
D	首すわり後の縦対面抱っこ	4ヶ月	24ヶ月	13kg	×	×	×
E	おんぶ	4ヶ月	36ヶ月	15kg	×	×	×

バックルのとめ方・外し方

取り付け時



「カチッ」と音がしてから引っぱって確認してください。

取り外す時



▼印の箇所を押して、抜いてください。

ベルト調節の方法

短くする時



引きにくいときは立てる

ベルトが引きにくいときはバックルやアジャスターを立ててください。

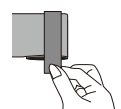
長くする時

必ず立てる



バックルやアジャスターを立ててベルトを引いてください。

余ったベルトの処理



ベルトの端の伸縮バンドでまとめてください。

A・B 「横抱っこ」に共通の準備と注意

★お買上いただいたときには、この「横抱っこ」の形態になっています。

その他の形態になっていた場合は、下記の「横抱っこの形態」を参照ください。

★通常横抱っこにはフードは使用しませんので、外してポケット等で保管してください。



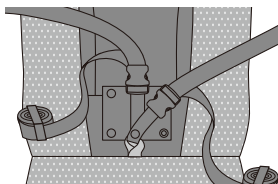
警告

- お子様を乗せる時や降ろす時は、実際ご使用になる前に安全な場所であらかじめ準備・調節しておいてください。
- 全ての調節部分を正しく調節し、正しく装着してください。
- 横抱っこでは、抱っこひもの上から必ず手を添えて、お子様を抱くようにして使用してください。
- お子様の頭が下になったり、装着者の身体から離れた状態にならないようにしてください。
- 必ずヘッドサポートを使用してください。

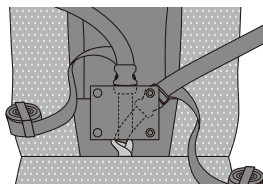
肩ベルト長さの調節

お子様を抱く前に、※横抱きバックルセットのカバーを開いて、下記の様な位置関係になるように調節し、調節後にはカバーを閉じてください。

横抱きバックルセット

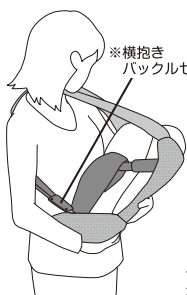


お子様の頭を左にして抱かれる方が多いので、お買上いただいたときには、左肩ベルトが下になるようにセットしてあります。



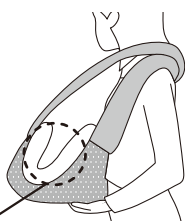
右肩ベルトを下にする場合は、バックルセット全体を反転させ、各ベルトがねじれないように、各バックルを反転させて挿し直します。

※横抱きバックルセット



お子様の頭が装着者の胸、お尻がウエスト近辺よりも上になるように、肩ベルトの長さを調節してください。
(あらかじめ長めにし、最後に短く調整してください)

お子様の頭位置



お子様の頭が左にくる場合、お子様を正面にした左の肩ベルトを下側に、かつ約7cm短くします。
(右に頭が来る場合は右の肩ベルトが短くなります)

調節範囲の中間



サポートバックルは最短長さに調節し、下側ベルトは調節範囲の一番上、上側ベルトは中間位置にスライドさせます。装着者の邪魔になるようであれば、移動してください。

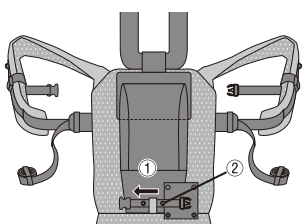
横抱っこの形態

「縦対面抱っこ」「おんぶ」の形態になっていた場合、以下の様に「横抱っこ」に戻してください。

肩ベルトの付け替え（「縦抱っこ」「おんぶ」の形態から戻す場合）

1

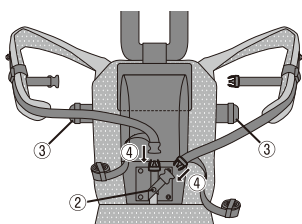
2



- ①横抱きバックルセットのメスバックルを、青い横抱きループに通します。
- ②青いストラップのボタンを、青い横抱きループをまたいでとめます。

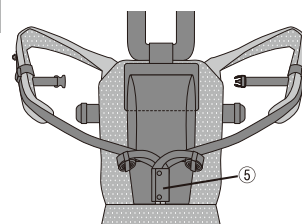
3

4



- ③肩ベルトバックルを、肩ベルト本体バックルから引き抜き
- ④横抱きバックルセットのバックルにとめます。

5

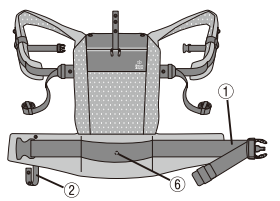


- ⑤横抱きバックルセットのカバーのボタンをとめてカバーを閉じます。

腰ベルトのまとめかた（「縦抱っこ」「おんぶ」の形態から戻す場合）

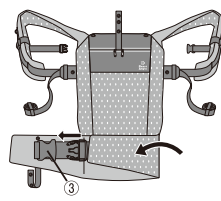
1

2



- ①腰ベルトの長さを最も短くして、余ったベルトは伸縮バンドでとめてください。
- ②腰ベルトホルドバンドのボタンを外してください。

3



- ③腰ベルトの体につく側を外側にして、バックルをとめてください。

4

5

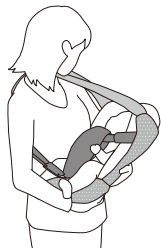
6



- ④腰ベルトの反対側も折り返して、腰ベルトホルドバンドを、下側からまわしてください。
- ⑤腰ベルトホルドバンドで、腰ベルトとバンドを一緒にまとめて、腰ベルトホルドバンドのボタンをとめます。
- ⑥腰ベルトホルドバンドの中間のボタンを、バンドの下の腰ベルトのボタンにとめます。

A 横抱きパッドを使用した横抱っこ 生後10日～首すわり(4ヶ月、体重7kg)

★抱っこひも全体を両手で包み込むように抱き上げ、肩ベルトは補助としてお使いください。
★最初に3ページの【横抱っこに共通の準備と注意】をご確認ください。



警告 抱っこするときには安全な場所を確保し、行ってください。

1

①横抱きパッドの固定ボタンを、本体の横抱きパッド固定ボタンにとめます。お子様が横抱きパッドに既に乗ってる場合も同様です。

2

②お子様を横抱きパッドの上に乗せ、お子様のお尻を股あてを上げたところに当てます。

3

4

③もしお子様の頭が横抱きパッドからはみ出すようであれば、7ページ「C:首すわり前の縦対面抱っこ」をご検討ください。
④ベビー肩ベルトを横抱きパッドの上から股あてに通して、股あてと内部でバックルをとめます。股あてとお子様の胸の間に大人の指3本分の隙間ができるように、ベビー肩ベルトの長さを調節してください。

注意 バックルをとめる際、左右のバックルに股あての布等を挟まないようご注意ください。

5

M字形

⑤股関節脱臼防止のため、お子様の股関節がM字形になるようにして、装着者の身体等で動きを妨げないようにしてください。

6

⑥肩ベルトのサポートバックルをとめてください。

7

⑦持ち上げる前に下記のチェックをしてください。

チェック1: 頭頂部が、横抱きパッドからはみ出していない
チェック2: 気道確保^{*1}、股あてとの間隔がある
チェック3: 胸に指3本分の余裕あり
チェック4: バックル類が確実にとめられている
チェック5: 足がM字形で、動かせる

警告 正しく装着されていないと、お子様が落下したり思わぬ事故につながるおそれがあります。

8

9

⑧装着者側の肩ベルトを下側に重ねて、肩からかけてください。お子様の頭と背中を両手で支えて上体を起こしてください。
⑨お子様の頭が装着者の胸、お尻がウエスト近辺よりも上にしてください。

★横抱っこは、お子様をやわらかく・やさしく包み込む方式ですので、肩ベルトで吊り下げるといより、全体を両手で包むように抱きあげてください。

10

⑩鏡を使ったり、介添えの方をお願いして下記のチェックをしてください。

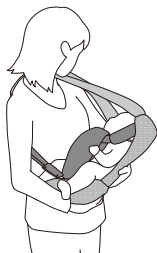
チェック1: 頭頂部が、横抱きパッドからはみ出していない
チェック2: 気道確保^{*1}、股あてとの間隔がある
チェック3: お子様の頭はお尻よりも上
チェック4: お子様の手足が挟まれていない
チェック5: 足がM字形で、動かせる
チェック6: 無理な体勢になっていない
チェック7: サポートバックルが装着者の首に当たっていない
チェック8: 左右肩ベルトの荷重が偏っていない

警告 正しく装着されていないと、お子様が落下したり思わぬ事故につながるおそれがあります。

^{*1}気道確保: お子様の口や鼻がふさがれていない、のどを押し付けていない等、呼吸をしやすくすることです。

B 横抱きパッドを使用しない横抱っこ 生後10日～首すわり(4ヶ月、体重7kg)

★抱っこひも全体を両手で包み込むように抱き上げ、肩ベルトは補助としてお使いください。

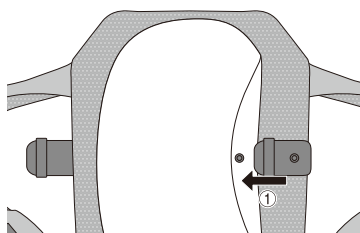


警告 抱っこするときには安全な場所を確保し、行ってください。

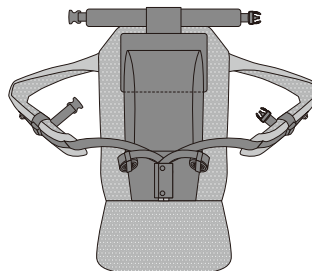
暑い時期等、横抱っこパッドを使用したくない場合は、以下の様に横抱っこしてください。

B 横抱っこ

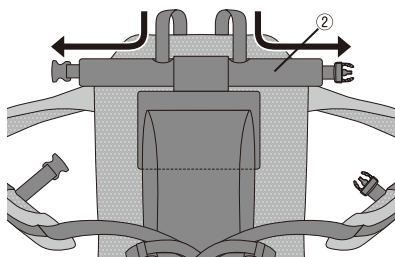
1



①4ページ「A:横抱きパッドを使用した横抱っこ」の状態になっている場合には、横抱きパッドの固定ボタン2個を外し、横抱きパッドを抱っこひも本体から外します。

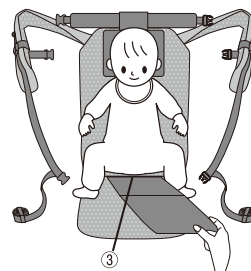


2



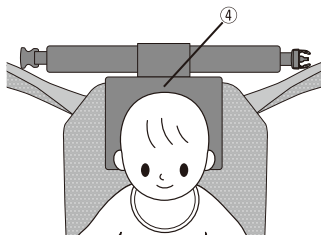
②ヘッドサポートが装着されていない場合には、ベビー肩ベルトをベビー肩ベルトカバーの左右のスリットから挿入してください。

3



③お子様を抱っこひも本体の上に乗せ、お子様のお尻を股あてを上げたところに当てます。

4



④頭頂部がヘッドサポートより下にあることを確認します。もしお子様の頭がヘッドサポートよりも上に出るのであれば、7ページ「C:首すわり前の縦対面抱っこ」をご検討ください。

5



⑤ベビー肩ベルトを股あてに通して、股あて内部でバックルをとめます。

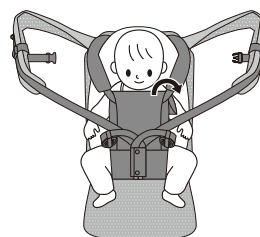
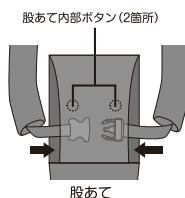
⑥チェックポイントは、4ページ「A:横抱きパッドを使用した横抱っこ」と同じで、「チェック1」では頭頂部がヘッドサポートよりも下にあることを確認します。

注意

バックルをとめる際、左右のバックルに股あての布等を挟まないようご注意ください。

股あての調節

●お子様が小さくてあごが股あてに触れる場合には、ベビー肩バックルを筒部の下部でとめてください。バックルとベルトが股あて内部ボタンよりも下方にあることを確認してから股あて内部ボタンをとめ、股あての上部をお子様側に折り返してください。お子様のお尻にタオルを敷いて調節できれば、それでも結構です。



①・② 「縦対面抱っこ」 / ③ 「おんぶ」 に共通の準備



- お子様を乗せる時や降ろす時は、実際に使用になる前に安全な場所であらかじめ準備・調節しておいてください。
- 全ての調節部分を正しく調節し、正しく装着してください。

縦対面抱っこ・おんぶの形態

「横抱っこ」の形態になっていた場合、以下の様に「縦対面抱っこ」「おんぶ」の形態にしてください。

肩ベルトの付け替え（「横抱っこ」から「縦抱っこ」・「おんぶ」の形態へ）

①

① 横抱きバックルセットのカバーのボタンを外してカバーを開けます。

②
③
④

② 肩ベルトバックルを、横抱きバックルセットのバックルから引き抜き
③ 肩ベルト本体バックルにとめます。
④ 横抱きバックルセットのボタンを外します。

⑤

⑤ 横抱きバックルセットのメスバックルを、青い横抱きループから引き抜きます。なくさないように保管してください。

腰ベルトのほどきかた

①
②

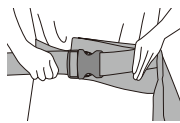
① 腰ベルトホールドバンドのボタンを外します。
② バックルを外して腰ベルトをほどきます。

③

③ 腰ベルトホールドバンドのボタンをとめます。（腰バックルの下側になります）

腰ベルトの調節

腰ベルトの長さを装着者に合わせて調節し、余ったベルトは伸縮バンドでまとめておいてください。



肩ベルトの調節

肩ベルトの長さは、左右の端をつかめるくらいに伸ばしておいてください。



ベビー肩ベルトの調節

①

① ベビー肩ベルトにはベビー肩ベルトカバーをつけた状態で使用してください。外して洗うことができます。

②

② ベビー肩ベルトの長さを調節します。その際、実際にお子様を乗せ、座面がお子様のお尻に当たるように腰ベルトを立てると、ベルトの長さ調節やバックル操作が楽になります。

③

③ お子様との隙間が大人のこぶし1個程度になるようにベビー肩ベルトの長さを調節してください。
※2ページ「ベルト調節の方法」参照。

④

④ 長さを調節したあとのベビー肩ベルトはベビー肩ベルトカバーの中に押し込んでください。

⑤

⑤ ベビー肩バックルが筒部の中にあるようにとめてください。

⚠️ 注意

バックルをとめる際、左右のバックルに股あての布等を挟まないようご注意ください。

※股あて内部ボタン（2箇所）を外してから筒部の中でバックルをとめてください。

「縦対面抱っこ」に共通の準備

サポートベルトの調節

①

① サポートベルトの上下位置を、ご自分の背中ではめられる高さに調節してください。下げすぎるとサポートバックルがとめにくく、上げすぎると首に負荷がかかります。肩ベルトをゆるめてから一度両方の肩ベルトを前に引っ張ると、サポートバックルをつかみやすくなります。

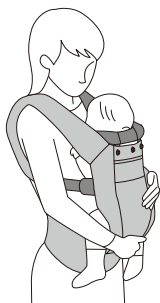
②

② サポートベルトの長さを調節し、余ったベルトは伸縮バンドでまとめておいてください。

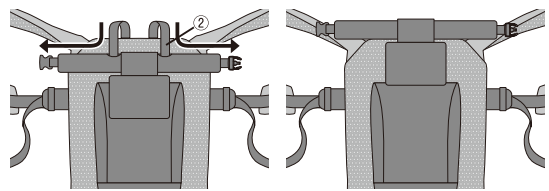
◎ 首すわり前の縦対面抱っこ 生後1ヶ月～首すわり(4ヶ月、体重7kg)

警告 抱っこするときには安全な場所を確保し、行ってください。

準備




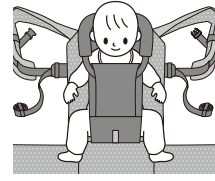
1 ①「縦対面抱っこ」に共通の準備をご確認ください。
※慣れないうちは他の方に介添えをお願いしてください。

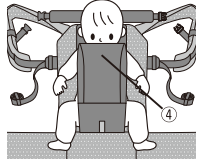
2 
②ヘッドサポートが装着されていない場合には、ベビー肩ベルトをベビー肩ベルトカバーの左右のスリットから挿入してください。

装着

1 
①お子様の後頭部がベビー肩ベルトカバーに当たるようにしてください。

2 
②腰ベルトを立てて抱っこひも本体を曲げ、座面を作ってください。お子様のお尻との間に隙間がある場合には巻いたタオルで調節してください。

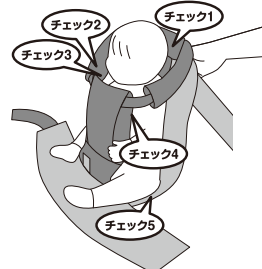
3 
③ベビー肩ベルトカバーがお子様の後頭部から側頭部に当たるようベビー肩ベルトを股あて内部でとめてください。

4 
④股あてがあごより上に来る場合は、5ページの「股あての調節」を参照して、股あて上部を折り返してください。

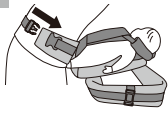
注意 バックルをとめる際、左右のバックルに股あての布等を挟まないようご注意ください。

5 ⑤一度肩ベルトの付け根の外側に両手を添えて、持ち上げてから手を添えたまま座らせて、右記のチェックをしてください。


チェック1: 頭が動かせて、かつ、ぐらつかない
チェック2: 気道確保^{※1}、股あてとの間隔がある
チェック3: 胸にこぶし1個分の余裕あり
チェック4: バックルが股あての筒部に通され確実にとめられている
チェック5: 巻いたタオルで調節した場合、お子様のお尻がズレていない




警告 正しく装着されていないと、お子様が落下したり思わぬ事故につながるおそれがあります。

6 
⑥お子様を寝かせ、腰ベルトを装着し、腰バックルを確実にとめてください。

7 
⑦肩ベルトに腕を通して、首の後ろでサポートバックルを確実にとめてください。最初にサポートバックルをつかんでいると簡単です。

8 
⑧抱っこひもの外側から、お子様の頭と背中を両手で支えて上体を起こしてください。

9 
⑨肩ベルトを左右同じ長さに調節します。余ったベルトは伸縮バンドでまとめてください。

10 ⑩鏡を使ったり、介添えの方をお願いして、下記のチェックをしてください。

チェック1: お子様の頭で、装着者の視界が妨げられない
チェック2: 気道確保^{※1}の再確認
チェック3: お子様の顔が装着者の胸に密着していない
チェック4: 頭が左右に動かせる
チェック5: お子様の手足が挟まれていない
チェック6: お子様の股関節・足がM字形で、全体が無理な体勢になっていない



※お子様のおでこにキスができるくらいの位置が最適だと言われています。お子様が小さい場合は、腰ベルトの位置を上げて、ご自身の最適位置を探してください。

※1気道確保: お子様の口や鼻がふさがれていない、のどを押していない等、呼吸をしやすくすることです。

警告 正しく装着されていないと、お子様が落下したり思わぬ事故につながるおそれがあります。

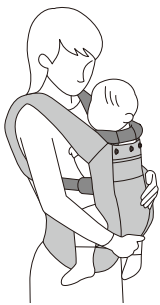
◎ 縦抱っこ

D 首すわり後の縦対面抱っこ 首すわり(4ヶ月)～24ヶ月(体重13kg)

縦抱っこ

警告 抱っこするときには安全な場所を確保し、行ってください。

準備



1 「縦対面抱っこ」に共通の準備をご確認ください
 ※慣れないうちは他の方に介添えをお願いしてください。

2 ヘッドサポートからヘッドパッドを外すことができます。ベビー肩ベルトカバーから片側のベビー肩ベルトを引き抜き、ヘッドパッドを引き抜きます。

3 ベビー肩ベルトカバーが汚れたり、お子様が暑がった場合には、首すわり以降は市販の肩ベルトカバーで代替できます。

装着

1 腰ベルトを立てて座面を作ってください。
2 お子様の顔が抱っこひもの中に隠れてしまう場合は、タオルを巻いたもの等を座面に敷いて調節ください。座面がお子様のお尻に当たるように腰ベルトを立てると、わかりやすくなります。

3 ベビー肩バックルが筒部の中にあるようにとめてください。
 ※股あて内部ボタン(2箇所)を外してから筒部の中でバックルをとめてください。
 ※6ページ「ベビー肩ベルトの調節」5ページ「股あての調節」を参照。
注意 バックルをとめる際、左右のバックルに股あての布等を挟まないようご注意ください。

4 一度手を添えて座らせて、下記チェックをしてください。
チェック1: 気道確保^{※1} 股あてとの間隔がある
チェック2: 胸にこぶし1個分の余裕あり
チェック3: バックルが股あての筒部に通され確実にとめられている
チェック4: 巻いたタオルで調節した場合、お子様のお尻がズレしていない
警告 正しく装着されていないと、お子様が落下したり思わぬ事故につながるおそれがあります。

5 お子様を寝かせ、腰ベルトを装着し、腰バックルを確実にとめてください。

6 肩ベルトに腕を通して、首の後ろでサポートバックルを確実にとめてください。最初にサポートバックルをつかんでいると簡単です。

7 抱っこひもの外側から、お子様の頭と背中を両手で支えて上体を起こしてください。

8 肩ベルトを左右同じ長さに調節します。余ったベルトは伸縮バンドでまもってください。

9 鏡を使ったり、介添えの方をお願いして、下記のチェックをしてください。
チェック1: お子様の頭で、装着者の視界が妨げられない
チェック2: 気道確保^{※1} の再確認
チェック3: お子様の顔が装着者の胸に密着していない
チェック4: 頭が左右に動かせる
チェック5: お子様の手足が挟まれない
チェック6: お子様の股関節・足がM字形で、全体が無理な体勢になっていない
警告 正しく装着されていないと、お子様が落下したり思わぬ事故につながるおそれがあります。

※1 気道確保: お子様の口や鼻がふさがれていない、のどを押し付けていない等、呼吸をしやすくすることです。

※お子様をおへそより上にすると、しっかりかつ楽に抱っこできます。ご自身の最適位置を探してください。

「抱っこ」からのお子様のおろし方

警告 お子様をおろすときは安全な場所を確保し、行ってください。

1 肩ベルトをゆるめ、抱っこひもの外側から、お子様の頭と背中を両手で支えて、上体を下げお子様を寝かせてください。

2 首の後ろでサポートバックルを外し、肩ベルトを外してください。一度両方の肩ベルトを前に引っ張ると、サポートバックルをつかみやすくなります。

3 腰ベルトの腰バックルを外してください。

【E】 おんぶ 首すわり(4ヶ月)～36ヶ月(体重15kg)

警告 おんぶするときには安全な場所を確保し、行ってください。



準備

1

①サポートベルトの上下位置を、ご自分の快適な位置に調節してください。通常は抱っここの位置より下側になります。サポートベルトの長さを調節してください。
※慣れないうちは他の方に介添えをお願いしてください。

2

②8ページ「D:首すわり後の縦対面抱っこ」と同様に・ヘッドサポートからヘッドパッドを外すことができます。
・ベビー肩ベルトカバーが汚れたり、お子様が暑かった場合には、首すわり以降は市販の肩ベルトカバーで代替できます。

装着

1
2

①腰ベルトを立てて座面を作ってください。
②お子様の顔が抱っこひもの中に隠れてしまう場合は、タオルを巻いたものを座面に敷いて調節ください。座面がお子様のお尻に当たるように腰ベルトを立てると、わかりやすくなります。

3

※ベビー肩バックルが筒部の中にあるようにとめてください。
※股あて内部ボタン(2箇所)を外してから筒部の中でバックルをとめてください。
④ベビー肩ベルトを装着してください。
※6ページ「ベビー肩ベルトの調節」5ページ「股あての調節」を参照。
注意 バックルをとめる際、左右のバックルに股あての布等を挟まないようご注意ください。

4

④一度手を添えて座らせて、下記のチェックをしてください。

チェック1: 気道確保^{※1} 股あてとの間隔がある
チェック2: 胸にこぶし1個分の余裕あり
チェック3: バックルが股あての筒部に通され確実にとめられている
チェック4: 巻いたタオルで調節した場合、お子様のお尻がズレていない

警告 正しく装着されていないと、お子様が落下したり思わぬ事故につながるおそれがあります。

5

⑤お子様を寝かせ、腰ベルトを装着し、腰バックルを確実にとめてください。

6

⑥肩ベルトに腕を通して、肩に掛け、静かに起き上がってください。

7
8

⑦サポートバックルをとめてください。
⑧肩ベルトを左右同じ長さに調節します。余ったベルトは伸縮バンドでまとめてください。

9

⑨鏡を使ったり、介添えの方にお願いして、下記のチェックをしてください。

チェック1: 気道確保^{※1}の再確認
チェック2: お子様の顔が装着者の背中に密着していない
チェック3: 頭が左右に動かせる
チェック4: お子様の手足が挟まれていない
チェック5: お子様の股関節・足がM字形で、全体が無理な体勢になっていない

警告 正しく装着されていないと、お子様が落下したり思わぬ事故につながるおそれがあります。

※1気道確保: お子様の口や鼻がふさがれていない、のどを押し付けていない等、呼吸をしやすくすることです。

「おんぶ」からのお子様のおろし方

警告 お子様をおろすときは安全な場所を確保し、行ってください。おんぶではお子様が見えにくいので特にご注意ください。

装着するときの逆の手順でおろしてください。

1

①サポートバックルを外してください。

2

②お子様を寝かしながら肩ベルトを外してください。

3

③腰ベルトの腰バックルを外してください。

安全バンドの使い方

肩ベルト本体バックルのカバーについています。万が一バックルが外れた場合に、一時的に保持する機能です。

① ① 絵の方向にバックルを挿入します。

② ② 安全バンドをバックルの突起にかけます。

③ ③ 絵のように安全バンドの位置を確認します。

フードの使い方

① ① 本体のフード取り付けボタン(3ヶ所)にフード固定ボタンをとめます。

② ② 本体のフード肩ボタン(左右)にフード調節ボタンをとめます。
 ※最適な位置のボタンをとめてください。
 ※着脱は無理に引っ張ったりせずボタンの近くを持ってボタンの垂直方向に着脱してください。

●お子様を日差しから守ったり、首カクンを防止します。
 ●使用しないときにはポケット等に収納したり、外して単独で洗えます。
 ※別売のオプションフードで各種の色柄をお楽しみいただけます。

警告 フードを使う時は、特にお子様の様子に注意してください。気道がふさがると窒息するおそれがあります。

まるめる収納

① ① ポケットの中からまるめるコードを取り出し、左右のポケットファスナーを中央部に寄せます。

② ② 腰ベルトをつけたままで肩ベルトをもち、身体と並行にします。

③ ③ 手前にまるめます。

④ ④ まるめるコードを横抱きループ(青)に通してボタンをとめます。

⑤ ⑤ 腰ベルトを外して、腰ベルトで巻くとさらに小さく収納できます。

※1週間以上保管するときは、販売されていたときと同様にたたむかハンガーに掛け肩ベルト等に負荷のかからない状態にしておいてください。変形することがあります。

余ったベルトの処理方法

その1 余ったベルトが長い場合、ひとつにまとめるループの長さを長くすると、薄いループで巻くことができます。

① ① ② ② 伸縮バンド

その2 頻繁に長さ調節が必要でなくなった場合は、以下の様にまとめるとすっきりまとまります。

① ① 伸縮バンドをベルトの端からかぶせます。

② ② バックルを伸縮バンドに通します。

③ ③ 伸縮バンドの位置とループの大きさを適当に調節します。

その他の便利な使い方

装着台がない場合の「縦対面抱っこ」(腰すわり後)

腰がすわって、お子様が自分でも抱っこされる姿勢を取れるようになってからは、装着台が無くても装着ができます。

警告 なるべく低い姿勢で、安全な場所で行ってください。最初は、肩ベルトの長さをやや長めに調節しておきます。

① 腰ベルトを装着し、股あての上部を腰ベルトにはさんでください。

② お子様を抱き上げ、股あてを装着者との間にはさみます。

③ 片手でお子様を支え、片側ずつ肩ベルトをかけます。

④ ベビー肩ベルトは外側にたらしめます。

⑤ サポートバックルをはめまします。(両手が見えるようになります。)一度両方の肩ベルトを前に引っ張ると、サポートバックルをつかみやすくなります。

⑥ 股あてを引き上げます。

⑦ 股あての中で、ベビー肩バックルをとめます。

⑧ 肩ベルトの長さを調節します。

⑨ 「縦対面抱っこ」に書いてあるチェックポイントにしたがって、確認をしてください。
①で股あてを腰ベルトにはさみず、②で股あてをお子様との間にはさめる場合には①と⑥を省略できます。

その他

装着台が低い場合の抱き方・おろし方

ベビーベッドやソファ等をご使用の場合で、それらの装着台が低くて腰ベルトを先に装着することが困難な場合は、お子様の首がすわってからであれば、肩ベルトを先に、腰ベルトを後に装着できます。

警告 ベビー肩ベルトと股あてで、お子様が抱っこひもにしっかりと装着されていることを確認してください。

① 肩ベルトに腕を通して、首の後ろでサポートバックルを確実にとめてください。

② 抱っこひもの外側から、お子様の頭と背中を両手で支えて上体を起こしてください。

③ 腰ベルトでお子様を挟まないように注意して、バックルを確実にとめて肩ベルトの長さを調節してください。

おろし方は、ベビー肩ベルトと股あてで、お子様が抱っこひもにしっかりと装着されていることを確認後、肩ベルトをゆるめ、上記の逆に、腰バックルを外した後に、お子様を安全な場所に下ろしてから、サポートバックルを外してください。

お手入れ



30°Cを限度とし、洗濯機(非常に弱い洗濯)か、やさしく手洗いをしてください。



漂白しないでください。
タンブル乾燥機は使用しないでください。



遠心脱水の場合は短時間で実施し、形を整えて日陰の吊り干しをしてください。



アイロン掛けはできません。
ドライクリーニングはできません。



ウェットクリーニングができます。
(非常に弱い処理)

- 色落ちする場合がありますので他のものとは別に洗ってください。
- 洗濯ネットを使用し、すべてのバックル類をはめ、無蛍光洗剤を使用してください。
- 洗濯すると縮むことがあります。
- 軽い汚れは、湿った布でたたいて落としてください。
- 生地表示等は、製品の洗濯表示ラベルを参照ください。
- 付属部品は、個別の洗濯表示がない場合は左の表示に従ってください。横抱きパッドのカバー等、個別表示がある場合には、部品の洗濯表示を参照ください。

安心のSGマーク付

- SGマーク付き製品は安全性が高く、安心してお使いいただけます。
- SGマーク制度は、SGマーク付き製品の欠陥により人身事故が発生した場合に、製品安全協会が賠償措置を行う制度です。
- 抱っこひもの場合は、お買上げ日から3年間有効です。
- 製品そのものが故障した場合に補償するものではなく、他の物に生じた損害(物的損害)を賠償するものではありません。製品の欠陥によって傷害等の身体的な損害(人的損害)について賠償する制度です。
- 詳細は、一般財団法人製品安全協会のホームページ <http://www.sg-mark.org/> を参照ください。



使用方法の動画等

使用方法の動画等の情報に関しましては、下記のホームページ経由で参照いただけます。
ホームページ内の「ダッコール」のページからアクセスしてください。

検索は...

URL

http://www.24028.jp/

ニシマツヤ
24028 ダッコール

検索



保証書

本書は、本書記載内容で無料保証を行うことをお約束するものです。お買い上げの日から下記期間中、製品の故障が発生した場合は、本書をご提示の上、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

保証規定

- 一度ご使用になった製品は、原則としてお取り替えできません。
- 保証期間内（お買い上げ日より1年）に正常な使用状態において、万一故障した場合には無料で保証いたします。
- 保証期間内でも次のようなものは保証対象外となります。
 - 部品の自然劣化による変色や変形。
 - 縫製部分の傷や破れや汚れ。
 - お客様の誤使用、または改造や不当な修理による故障および損傷。
 - 火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変や事故による故障および損傷。
 - 本書にお買い上げ日、お客様名、販売店名の記入のない場合、あるいは字句を書き換えられた場合。
 - 本書のご提示がない場合。
 - 一般家庭以外で、業務用等にご使用され故障した場合。
 - 伸縮バンド、フード等のゴム類の伸び。
- 本書は日本国内においてのみ有効です。海外からの保証サービスはいたしかねます。
- 製造中止後の製品については必要部品の在庫がなくなった場合、保証できないこともあります。

製品名 ダッコールベルソーEX D'accord Berceau EX	お買い上げ日 年 月 日	販売店名
管理番号。 (洗濯タグをご覧ください。)	保証期間 お買い上げ日より1年 (ただし保証規定による)	
お客様	お名前 様 TEL	
	ご住所	

- お買い上げ後、お買い上げ日、お客様名、販売店名、管理番号をただちにご記入願います。
- 万一故障が生じた場合はこの保証書及びレシート、または保証書シール、または保証書レシートをご提示ください。
- ご贈答、ご移転で保証書に記入してある販売店に依頼できない場合はお客様相談窓口にご相談ください。
- 本書は再発行いたしませんので、大切に保管してください。
- この保証書は、本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料保証をお約束するものです。従ってこの保証書によって法律上の権利を制限するものではありません。保証期間経過後において不明な点がある場合は、お客様相談窓口にお問い合わせください。
- 保証書にご記載いただきました個人情報につきましては、個人情報保護法の規定に従い、お客様の故障保証についてのみ利用させていただきます。それ以外の用途には利用いたしません。
- 本製品は安全を重視している為、厚い生地を使用し多くの補強縫製部を有しています。確実に縫製するために、生地の重なり部分や補強縫製部の色目が変わることがありますが、安全性を優先させておりますのでご理解ください。
- 製品の品質向上のため予告なく仕様を変更する場合があります。
- 取扱説明書の図の細部等が実物と異なる場合があります。

この製品の品質で、お気づきの点がございましたらお手数ですが下記までご連絡ください。

販売元

株式会社 西松屋チェーン

〒671-0218 兵庫県姫路市飾東町庄266-1

【お客様相談窓口】フリーダイヤル 0120-7-24028

受付時間 10:00～18:00(土・日・祝日・弊社所定休日を除く)